

# 高等学校外国語科(英語)学習指導案

広島県立教育センター  
指導主事 中村 素子

- 1 科目 論理・表現 I
- 2 単元名 自分の考えを論理的に書いて伝える

## 3 単元について

### ○単元観

本単元は、高等学校学習指導要領(平成30年告示) 外国語 論理・表現 I 1 目標 (3) 「書くこと」 イ 「日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。」に基づいて設定した。同解説外国語編英語編において、「論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えるとは、情報や自分の考えや気持ちなどを論理的に伝えるために、モデルなどを活用して論理の構成や展開の仕方を学んだ上で、論理に矛盾や飛躍がないか、理由や根拠がより適切なものとなっているかなどについて留意しながら文章を書いて伝えることである。」と示されている。本単元では、主題文、支持文、結論文という構成から成る一つの段落を取り上げ、段落の構成について指導する。

題材としては、「16歳未満のSNSの利用を規制する」というテーマを取り上げた。社会的な話題でありながら多くの高校生の日常生活の一部となっているSNSの使用に関わる話題であり、自分に大きく関係のある話題として捉えることが期待できる。他国の状況や自分の経験などを踏まえて理由や根拠とともに自分の考えを伝えるのに適した題材である。

### ○生徒観

「書くこと」を含む発信能力の向上は、現行学習指導要領改訂前からの全国的な課題であり、論理・表現の科目設定も発信能力の育成を強化することを意図されたものである。しかしながら、「【令和7年度】英語教育に関する調査研究(英語力に関する調査分析)」(文部科学省)によると、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の高校1年生の全国平均スコアは令和3年度から6年度にかけて横ばいだったのに対し、同時期「書くこと」の全国平均スコアは減少した。また、高校1年生の「書くこと」におけるCEFRのA2レベル相当以上の高校生の割合も、令和3年度から6年度にかけて上昇したものの、令和6年度に大きく減少している。このように、「書くこと」の資質・能力に関して、引き続き改善への取組が必要だと言える。

論理的に書くことに関しては、前述の調査分析によると、「英語で話したり書いたりするとき、話題や伝える場面に応じた表現を使って、論理性に注意しながら伝えるようにしている」について、「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した生徒が合わせて44.2%であった。半数近くの生徒が論理性に注意しながら伝えることを意識することができるようにしている。ただし、実際に知識や技能を活用して、論理的に書いて伝えることができるようになるには、授業での継続的な指導が重要である。

### ○指導観

本単元では、日常的な話題や社会的な話題について、自分の考えを、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることを目標にしている。コミュニケーションの目的、場面、状況として、普段から交流のある海外の姉妹校の生徒に、自分たちの考えを理解してもらうために、英文を書いて伝える場面を設定した。この目標の達成に向けた指導として、次のことを行う。

- ① 取り上げるテーマについてのモデル文を読み、段落の構成について理解する。
- ② 説得力のある理由や根拠とはどのようなものかグループワークや生成 AI の活用を通して考えを深め、説得力のある理由や根拠を英語で書けるようにする。

また、毎時間、導入の帯活動として、時間を設定して英文を書くライティング活動を実施し、書くことにおける流暢さを高める。

生成 AI の活用に関しては、「令和 6 年度広島県高等学校生徒質問紙、学校質問紙調査報告書」によると、「外国語科では、デジタル機器を活用した授業を行っている」の項目に対して「当てはまる」の回答した学校が 1 年生は 96.6%、2 年生は 97.4%と、ほぼ全ての学校でデジタル機器が活用されている。外国語科の授業でデジタル機器や ICT が身近になっていると推測できる。しかし、デジタル機器は様々な使用方法があり、「書くこと」において、ただ単に英文翻訳するために使うなど資質・能力の育成にはつながらない使用の仕方をしている場合もあると想定できる。そのことから、ICT を授業で使う際には、生徒の「書くこと」の資質・能力の育成につながったり、授業外でも使ってみたいと思えるような、自律的な学習につながったりする方法を生徒に示すことで、生徒の資質・能力の向上かつ学習過程の向上につながる指導を実施する。本単元では、英文を書き直す際に、改善点を知るために生成 AI の活用を取り入れる。

#### 4 単元の目標

海外の姉妹校の生徒に、SNS の規制に関する自分の考えを、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。

#### 5 単元の評価規準（「書くこと」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解している。</li> <li>・SNS の規制について、自分の考えを、論理の構成や展開を工夫して書く技能を身に付けている。</li> </ul>	海外の姉妹校の生徒に自分の考えを理解してもらうために、SNS の規制について、聞いたたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、理由や根拠とともに、論理の構成や展開を工夫して段落を書いて伝えている。	海外の姉妹校の生徒に自分の考えを理解してもらうために、SNS の規制について、聞いたたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、理由や根拠とともに、論理の構成や展開を工夫して段落を書いて伝えようとしている。

#### 6 単元終末の言語活動

単元を通して以下の課題に取り組み、英作文を提出することを伝える。

下記は海外姉妹校の生徒が送ってきたメッセージです。メッセージを読んで、あなたの考えを英語で書きなさい。ただし、下の条件ア～ウを満たすように書くこと。

Hi! In New Zealand, the government is currently discussing whether social media should be restricted for children under 16. As you may know, Australia has already introduced a law that prevents most social media accounts for people under 16, which came into effect in December 2025. We discussed this topic in our class, and thought we would like to know the opinions of students in other countries. Could you tell us your opinion about this topic? Thanks !

<条件>

- ア 自分の立場を明確にして、理由を二つ挙げること。
- イ 読み手が納得できるような理由や根拠を示すこと。
- ウ 論理の構成や展開が読み手に分かりやすくなるように工夫すること。

7 単元の指導と評価の計画（全5単位時間想定）

時	各時間の目標（■） 主な言語活動等（○）	○記録に残す評価 （ ）評価方法	指導上の留意事項
1	<p>■単元の目標を理解し、課題に対する理解を深める。</p> <p>■SNSの規制のメリット、デメリットや、背景について理解する。</p> <p>①海外の姉妹校の生徒からのメッセージを読み、課題を理解する。</p> <p>②SNSの使い方やメリット・デメリットを自由に出し合う。</p> <p>③クラス全体で、SNSの規制に関するモデル英文を読む。</p> <p>③ SNSの規制に対する自分の考えと理由を、②で話したことを踏まえて1～2文程度で書く。</p>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標及び単元の評価規準を共有する。</li> <li>各自でこれまでの振り返りを基に目標を設定させる。</li> <li>理由を示すのに使える表現（so、because）などを使って英文を書かせる。</li> </ul>
2	<p>■説得力のある論証文の書き方について学ぶ。</p> <p>① 前時と同じモデル英文を再度読む。</p> <p>② ①の英文について論理の構成や展開で工夫されている点について確認する。</p> <p>③ &lt;条件&gt;イ 「読み手が納得できるような理由や根拠」とはどのようなものが当てはまるか考え、グループで共有し、クラス全体でも確認する。</p> <p>④ モデル英文を使ってアウトラインを作成する練習をする。</p> <p>⑤ ②③④で気付いたことを踏まえて、アウトラインを書く。</p>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落が主題文、支持文、結論文で構成されているモデル文を示し、段落の構成について理解させる。またつなぎ言葉もどのようなものがあるか理解する。</li> <li>読み手が納得できるような理由や根拠を考える際に、事実と意見の表し方の違いを理解したり、説得力を持たせるために理由を述べた後で説明や具体例を示すことが重要であることなどを確認する。</li> <li>③において、グループで考えを共有する際に、一度グループ内で意見を共有した後で他の意見を知るために生成AIの活用をしても良いことを伝える。</li> </ul>

生成AIの活用例（相談相手として生成AIを利用する）

プロンプトの例

論理・表現Iの授業で、論理の構成や展開を工夫して英文を書く練習をしています。英文の条件の一つに、読み手が納得できる理由や根拠を示す必要があります。読み手が納得できる理由や根拠を示すこと、理由を述べたあとで説明や具体例を述べるのが重要だと考えましたが、他にも重要なことがありますか。

（生成AIの生成結果の例）

とてもよい気づきです。「理由→説明・具体例」は、読み手を納得させるための一番大切な基本です。それに加えて、次のポイントも意識すると、論理の構成や展開がより分かりやすくなります。

読み手が納得できる理由・根拠にするためのポイント

- ① 意見と理由がはっきりつながっていること
- 理由は、その意見を支える内容である必要があります。

○よい例 I think students should wear uniforms because they help students save time in the morning.

「だからその意見なのだ」と読み手がわかる理由を書くことが大切です。

3 (本時)	<p>■アウトラインを基に、自分の考えを理由や根拠とともに書く。</p> <p>①前時で作成したアウトラインを基に、英文を書く。</p> <p>②グループで英文を読み合い、主に内容面から気付いたことを伝え合う。グループで共有したことを基に書き直す。</p> <p>③生成 AI を活用し、英文を言語面と内容面で改善する。</p> <p>④英文を完成させる。</p>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトラインを基に英作文を書くときは、辞書を主に使うよう促す。生成 AI を使う場合は語や表現レベルにするよう指示する。</li> <li>・チェックリスト等を示し、生徒がどのような点に注意して自分の作文やほかの生徒の英作文を評価するとよいのかを示す。</li> </ul>
4	<p>■グループで英文を読み合い、良い英文を選ぶ。またクラス全体で良い英文を選ぶ。</p> <p>①グループで、論理の構成や展開の点で良い英文を選び、オンラインで共有する。</p> <p>②グループごとに選んだ英文をクラスで共有し、良い点を確認する。</p> <p>③単元目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>	<p>○思判表（オンラインでの提出）</p> <p>○主学態（行動観察・振り返りシート）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックリストを基に、できるようになったこととその理由、工夫した点、課題等を振り返りシートに記入させ、自分の学習状況を捉えさせる。</li> </ul>
5	<p>違うテーマで論証文を書く課題に取り組ませる。</p>	<p>○知・技</p> <p>○思判表</p> <p>○主学態</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数日前にテーマを示して準備期間を与えた上で、書く時間を授業内に取りなど、学んだことが生かせるよう工夫する。</li> </ul>

### 8 本時の展開（第3時）

過程	学習活動	指導上の留意点 (・) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て)	評価規準 【観点】 (評価方法)
帯活動 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を設定して書くライティング活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間、テーマ、目標とする語数等を設定し、英文を書かせる。正確さよりも流暢さを重視して書くことを伝える。本時では、テーマを示した後、2分間で内</li> </ul>	

		容を考え、その後3分間なるべく止まらず英文を書くように指示する。	
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の目標を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読み手に納得してもらえるように、論理の構成や展開を工夫して自分の考えを理由や根拠とともに書く。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒は、本時の目標に対する見通しと個人の目標を立てる。</li> </ul>	
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時で確認した、論証文を書く時の段落の構成について確認する。また、前時で確認した、説得力のある英文における理由や根拠について振り返る。</li> <li>・ 前時で作成したアウトラインを基に、英文を書く。</li> <li>・ グループで英文を読み合い、言語面や内容面から気付いたことを伝え合う。グループで共有したことを基に書き直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主題文、支持文、結論文という構成を確認する。</li> <li>・ アウトラインを基に英作文を書くときは、辞書を主に使うよう促す。生成AIを使う場合は語や表現レベルにするよう指示する。</li> <li>◆ 英文があまり書けていない生徒は、まずはアウトラインに沿ってシンプルな文を一文ずつ書くように促す。その後、つなぎ言葉を使ってつなげられる文がないか考えさせる。</li> <li>・ 言語面においては、内容が伝わったかを基に助言をする。内容面においては、論理の構成や展開に工夫があるか、また読み手が納得できる理由や根拠が示されているかどうかを中心に助言し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の最後で使うチェックリストを確認し、英文の完成後、どのような点に注意して自分の作文や評価するのか確認する。</li> </ul>

・生成 AI を活用し、英文を言語面および内容面で改善する。

・基本的なプロンプトを示し、生徒はそれを活用して生成 AI を使用する。  
・内容面での改善に生成 AI を利用する場合、プロンプトに改善例を示さないことを含むなどして、英文は生徒自身で書くように促す。

#### プロンプトの例

あなたは高校の英語教師です。生徒に、「16 歳未満の子供の SNS の使用を規制する」というテーマの賛否についてニュージーランドの姉妹校の生徒に自分の考えを英語で書いて伝えるという課題を出しています。

以下の【英文】を、CEFR A2 レベルの英文になるように、以下の 3 ステップで添削してください。

ステップ 1 語彙や文法の改善例を示し、修正した箇所を [ ] で囲む。

ステップ 2 修正した文章の下に、ステップ 1 で改善したところの詳細な説明を簡条書きで書く。

ステップ 3 論理の構成や展開に工夫があるかという視点から良い点と改善点を簡条書きで示す。論理の構成や展開を工夫しているかは、以下の二点で判断する。改善すべき点は示すが、改善例は示さない。

- 1 段落が主題文、支持文、結論文で構成されている。
- 2 理由を支える説明や具体例が十分述べられている。

#### 【英文】

I think that social media should be restricted for children under 16. I have two reasons to think so. First, the risk of children getting involved in crimes will be reduced. When children use social media, strangers may contact them, and harm them or lead them to commit crimes. According to a report, more than 1700 children were involved in crimes because of SNS. If social media is restricted for children, most of those crimes will be prevented. Second, children will be mentally healthier if they do not use social media. Children who often use social media tend to compare themselves with others who they see on social media. As a result, they lose confident in themselves. For those reasons, I believe children under 16 should not use social media.

(以下は ChatGPT の生成結果の例)

#### 【ステップ 2】

・lose confident → lose confidence

“lose confident” は誤りです。Confident は形容詞なので、名詞の confidence に修正しました。

#### 【ステップ 3】

##### 良い点

- ・ 主題文 (I think that …) が最初にあり、自分の立場が明確に示されている。
- ・ 「First」「Second」と理由が整理されており、構成がわかりやすい。

##### 改善すべき点

- ・ 一つ目の理由の説明はあるが、「なぜ規制すると犯罪が減るのか」という因果関係の説明がやや不足している。
- ・ 二つ目の理由について、具体例や説明が少なく、説得力がやや弱い。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文を完成させる。</li> </ul>		
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の目標の達成状況を各自で振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の最初に示したチェックリストを使い、自分の作文を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思判表（オンラインでの英作文の提出、オンラインでの振り返り） チェックシートを使って到達状況を確認する。</li> <li>・ 主学態（オンラインでの振り返り）</li> <li>・ 本時の目標と、本時のはじめに立てた個人の目標がどれだけ到達できたか振り返る。</li> </ul>

### 9 第3時の「概ね満足できる状況（b）」と判断するポイント

(1) 「思考・判断・表現」が「おおむね満足できる状況（b）」と判断する例

I think that social media should be restricted for children under 16 for two main reasons. First, it can protect children from danger. On social media, some strangers try to contact young users and may send harmful messages or invite them to unsafe places. Children are not always able to judge what is dangerous, so restricting social media can reduce these risks and keep them safe. Second, children can be mentally healthier without social media. Many children compare themselves with others online and feel sad or lose confidence. For these reasons, I believe children under 16 should not use social media. (101 語)

(2) ルーブリック（具体的な評価基準）

ア 自分の立場を明確にして、理由を二つ挙げること。

イ 読み手が納得できるような理由や根拠を示すこと。

ウ 論理の構成や展開が読み手に分かりやすくなるように工夫すること。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現の選択に優れ、誤りのない英文を用いて書いている。	三つの条件をすべて満たしたうえで、理由や根拠を詳細に示しながら書いている。	三つの条件をすべて満たしたうえで、理由や根拠を詳細に示しながら書こうとしている。
b	誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	三つの条件を全て満たして書いている。	三つの条件をすべて満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。